



後野愛宕神社の拝殿



後野愛宕神社の拝殿に残る京極家の家紋「平四つ目結」

後野愛宕神社の拝殿
後野の愛宕神社の拝殿は、明治7～8年に「宮津城の本丸御殿の玄関」を移築したものです。屋根直下の正面中央には、寛文6（1666）年まで宮津藩主だった「京極家」の家紋「平四つ目結」があります。この拝殿は、初期の宮津城内の姿を今に伝える希少な建物でもあります。

さて、江戸幕府から明治新政府への変換期に、新政府は日本列島を天皇を頂点とする近代国家へと再構築していきます。ここでは、日本人の心を一本化するために、国家神道を普及させました。このことによって、神社への関心が大いに高まっています。

（与謝野町教育委員会）



故郷の祭りと、与謝野の夏。

子どものころの記憶と重なった、下山田の納涼祭

私

が生まれ育った韓国の清州市のボンミョンドンというまちでは、

毎年夏が終わる時期に「鳳凰祭」という祭りが開かれています。たった1日だけの祭りですが、朝から晩まで公園の中にいろいろなステージやお店が並び、たくさんの人でにぎわいます。祭りの最後はのど自慢大会があり、それが終わると花火が上がって1日が締めくくられます。大人のためのイベ



ステージ発表

ントが多かったのですが、子どもだった私はこのお祭りが大好きでした。お祭りが開かれる公園には小さな山がありました。普段は夜になると暗くて少し怖いのですが、お祭りのときだけは、ステージを見るために登ってくる人たちがたくさんいて、夜でも安全に走り回って遊ぶことができました。人々の楽しそうな姿や、夜になっても自由に遊べるその空間が、私をとてうれしい気持ちにさせてくれた記憶があります。

与謝野町に来てから早いもので2年が経ち、下山田の納涼祭も2回目を迎えました。この納涼祭は、子どもから大人までみんなが一緒に楽しめる、本当にすてきな場所だと感じました。お昼には、公民館のホールで子どもたちが集まってアニメを見る映画館のような時間が作られていて、上映が終わると「かかし文庫」で子どもたちが自分の手で工作できる体験の場も用意されていました。



かかし文庫によるイベント

夕方からは家族が集まり、地域の方々の趣向を凝らしたステージを見ながら、おいしい食べ物や飲み物を楽しむ時間は、きつとみんなにとって良い思い出になったのではないかと思います。その中でも、下山田の農家さんが作った無農薬の紫色のトウモロコシが本当においしくて、去年に続いて今年も買って家でいただきました。茹でて食べても、生で食べても甘くておいしいこのトウモロコシは、たくさんの方々にぜひ味わってほしいと思う一品です。

日差しが強い朝から青年部の方々が集まって、重い道具や TENT を運んだり、ステージを組み立



多くの来場者でにぎわう納涼祭

てたりと、汗を流しながら準備をされていました。地域のお祭りを支えるために力を尽くしてくださる青年部の皆さんや、子どもたちの笑顔のために一生懸命イベントを企画してくださったかかし文庫、そして公民館の皆さんのおかげで、大人から子どもまでが安全で楽しい時間を過ごせたのだと思います。

下山田の納涼祭に参加している皆さんの楽しそうな姿や、夜になっても自由に走り回って遊ぶ子どもたちの姿は、私の子どもころの「鳳凰祭」の懐かしい思い出を、優しく呼び起こしてくれました。

コラム「与謝野の風」

— 第5話 —

みんなのまち、与謝野。

— 第3次総合計画策定に向けて —

与謝野町長
佐賀 利裕



今 月は「与謝野町第3次総合計画」についてお話しします。

当町では昨年8月から、よさのみらい会議や各種アンケート調査、総合計画審議会を通して『将来どのようなまちになってほしいか』ということについて、延べ1600人を超える方々からご意見をいただきました。皆さんの声を紡ぎ合わせた与謝野町の将来像は、「住んでいて人が住み続けたい」「（まちを離れた人が）帰ってきたい」「（住民や出身者が）応援したい」（他



秋の空と大江山の稜線（昨年の10月に撮影）

のまちに住む人が）住んでみたいまち」というものでした。この将来像を実現するため、どのようなことに取り組んでいくのかという方針を分野別に立て、基本的な施策を掲げた「第3次総合計画（案）」を今月号に掲載しました。ぜひご覧いただき、ご意見を賜りますようお願い申し上げます。

与謝野町は、私たちみんなのまちです。私たち一人ひとりが自分の家を建てるような気持ちで、まちづくりにご協力くださいますよう、お願い申し上げます。